

地震 その時10のポイント

(東京消防庁作成)

地震だ！ まず身の安全

- 揺れを感じたり、緊急地震速報を受けた時は、身の安全を最優先に行動する。
 - 丈夫なテーブルの下や、物が「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」空間に身を寄せ、揺れが納まるまで様子を見る。
- [高層階(概ね10階以上)での注意点]
- 高層階では、揺れが数分続くことがある。
 - 大きくゆっくりとした揺れにより、家具が転倒・落下する危険に加え、大きく移動する危険がある。



地震直後の行動

- 落ちてくる火の元確認 初期消火**
 - 火を使っている時は、揺れがおさまってから、あわてずに火の始末をする。
 - 出火した時は、落ち着いて消火する。
- あわてた行動 けがのもと**
 - 屋内で転倒・落下した家具類やガラスの破片などに注意する。
 - 瓦・窓ガラス、看板などが落ちてくるので外に飛び出さない。
- 窓や戸を開け 出口を確認**
 - 揺れがおさまった時に、避難ができるよう出口を確認する。
- 門や塀などは 近寄らない**
 - 屋外で揺れを感じたら、ブロック塀などには近寄らない。

地震後の行動

- 火災や津波 確かな避難**
 - 地域に大規模な火災の危険がせまり、身の危険を感じたら、一時集合場所や避難場所に避難する。
 - 沿岸部では、大きな揺れを感じたり、津波警報が出されたら、高台などの安全な場所に素早く避難する。
- 正しい情報 確かな行動**
 - ラジオやテレビ、消防署、行政などから正しい情報を得る。



- 確かめ合おう 我が家の安全隣の安否**
 - 我が家の安全を確認後、近隣の安否を確認する。
- 協力しあって 救出・救護**
 - 倒壊家屋や転倒家具などの下敷きになった人を近隣で協力し、救出・救護する。
- 避難の前に 安全確認 電気・ガス**
 - 避難が必要な時には、ブレーカーを切り、ガスの元栓を締めて避難する。



この地図は、農業用ため池の「新池」「天王池」「片山池」「西ノ下池」が、地震などによって大きな被害を受け、ため池の堤防が決壊し、「片山池」から上流を含めた3つの貯水量が流れ出た場合と「西ノ下池」から上流を含めた4つの池の貯水量の水が流れ出て、洪水が発生した場合を想定し、そのはん濫水が到達する可能性のある区域と、予想される浸水の深さを表示したものです。

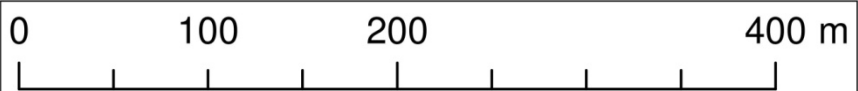
また「注意の必要な範囲」は地盤が低く、ため池や河川の状況によっては注意が必要となる範囲です。

実際のはん濫水の影響のある範囲は、ため池の貯水状況、堤体の被害の程度、周辺の土地利用状況等により、これと異なる可能性もありますが、地震が発生したら「まずは安全な場所に逃げる」ことが何よりも大切です。

地域の皆さんでこの地図をご活用いただき、地震時の安全確保に努めてください。

ため池ハザードマップ

新池・天王池・片山池・西ノ下池



右上図につづく